

2016 年度 事業報告書



一般社団法人 こどものホスピス・プロジェクト

一般社団法人 こどものホスピスプロジェクト : TSURUMI こどもホスピス
2016 年度事業報告書
(2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日)

1・はじめに：2016 年度の重点として

私たちは、命を脅かす病気とともに暮らす子どもとその家族に、友人のようにそばに寄り添いながらサポートを行う、世界水準の子どもホスピスの実践を進めようと、

- 病院ではなく家である(Home from home)
- 友として関わる(Friendship)
- 地域に根差した自発的な活動である(Local Initiative)
- 財源を寄付による慈善活動である(Free standing)



といった指針のもと、2016 年4月に鶴見緑地に「あそび創造広場 TSURUMI こどもホスピス」をオープンしました。子どもホスピスを日本の地域社会に根付かせていくために、初年度は、デイユースを中心とした各種ケア活動、地域に開いた運営、そして、ハウス運営を円滑に進めるための広報・ファンドレイジングの取り組みを、スタッフ態勢を強化しボランティアの養成を進めながら、順次スタートさせていった一年になりました。

2・子どもホスピスケアの取り組みとして

TSURUMI こどもホスピスは、命を脅かされた病気(LTC)を持つ子どもとその家族が、そして、私たち地域社会の一人ひとりが、生命の尊厳について考え、子どもが大事にされる地域社会をつくろうと願い、それを実践する場の一つであらうとしています。他の子どもやご家族の様子、経験を分かち合う機会を通じて、自らが感じたり、気づきを得る場であつたほしいと願っています。そんな TCH の活動は、まだ始まったばかりで、階段を一段ずつ上がってる試行錯誤の段階ですが、一つひとつの取り組みを丁寧に進めようとしています。

1) 募集(広報)&エントリー

オープン以降、メディアや自主媒体を通じ、お問い合わせや医療関係者からのご紹介等で、メンバーの登録・承認に至るまでの流れを説明し、エントリーの希望を受け付けました。

□募集からエントリーに(メンバー承認まで)

手続きと流れ	各項目の内容	組数	特記事項
①問い合わせ ↓相談対応	電話やメール等でケアスタッフに問い合わせが入る。	107	
②説明会・見学 ↓	個別見学や集団での説明会などで、ご利用方法について説明する。	66	NEST&ケアスタッフによるインタビューの実施※
③エントリー	ご家族記入用、医師記入用の2種類のエントリーシートを提出し、登録手続きに進む。	69	緊急度の高い子どもはこの時点から利用可とした

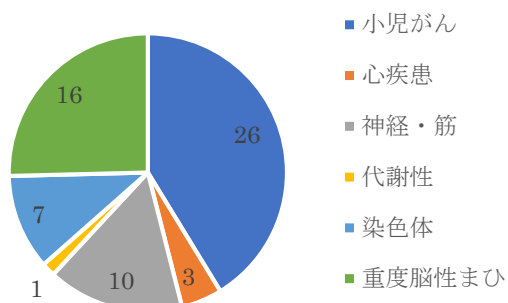
□登録から承認へ

④登録 ↓	スコアリングに基づき、メンバー登録を行った ※※(他、地域利用6組あり)	63	
⑤承認委員会審査 ↓	エントリーシートから、病気の子どもや見守るご 家族の状況を鑑み、審査を行う	63	
⑥メンバーの 承認確定	メンバーの承認を確定。正式な利用が開始さ れる。	63	

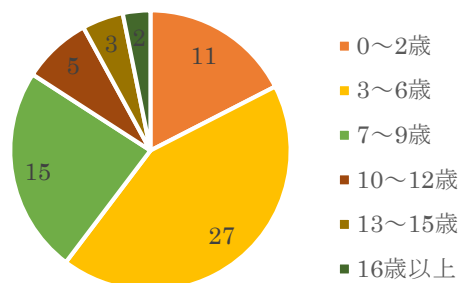
※当年度は NEST(インタビュー専門スタッフ)がインタビューを実施。2017 年度よりケアスタッフが担当します。

※※利用区分の定義の一部変更に伴い、2017 年度からスコアリングは実施していません。

●メンバー(63 名)疾患内訳



●メンバー(63 名)年齢内訳



18 歳以下の、命を脅かされた病気(LTC)の子どもとそのきょうだい・親が利用できる TCH として、積極的な受け入れを実施。そういった中、状況が厳しい子どもが診断まもない時期から利用していただけるアプローチや医療機関との連携など、潜在的な利用者層がアクセスしやすい工夫と努力が必要とされることが見えてきました。

2) ケアプランとケア活動の概要

①ケアプランの考え方について

ファミリー(子ども、きょうだい、親)ケアでは、個別な利用を行う「パーソナルアプローチ」と、複数のメンバーおよびファミリーが利用する「ゾーンアプローチ」でもって、ご家族の希望を伺いながら、ケアプランを立てていきます。

大事にする視点として、①家族ひとりひとりの思いに寄り添うために、②家族のつながりを深めるために、③安全に過ごすために、④安心できる場所として、⑤グリーフケア、の5点を押さえながら進めてきました。

ケアプランの内容を適宜見直し、実施した活動を検証する「ケアチーム会議」を週1回開催。この会議には、ケアスタッフ、ボランティア担当スタッフの他、きょうだい支援のスーパーバイザーとして NPO 法人しぶたねにご参加いただき、ケア実践の検証会議を行いました。



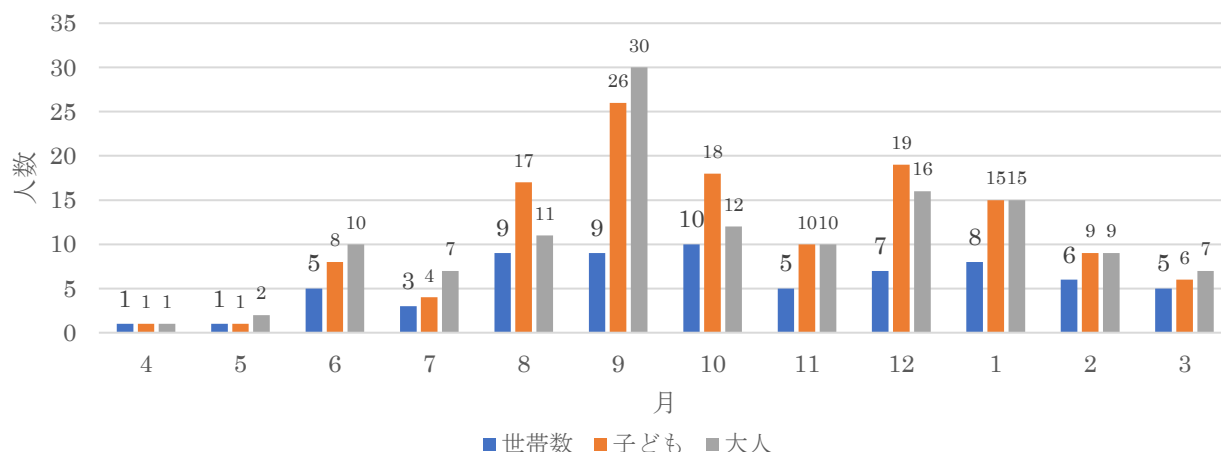
②ケア活動(個別プランやプログラム)について

□パーソナルケア

子ども自身がやりたいことや、その子らしく過ごすことを一番に考え、家族でどのような時間にしたいかを伺いながら、家族と一緒に作っていく場や時間になっています。家族ひとりひとりが気持ちを和ませ、開放でき、また、次への希望や意欲につなげていっています。



パーソナル利用推移



□週末・集団系のプログラム

疾患対象者をがんとがん以外の疾患(非がん)に分け、複数家族が集まったプログラムを実施したことで、活動を通して、子ども同士の交流、親同士の情報交換を図りました。また、活動の考え方として、病気や障がいがあっても子どもたちが自分でできる遊び環境を構成し、子ども自身がやりたいことを選んで遊んだり、子ども同士が多くの人との関わりや共通の体験を持ったことが、彼らの意欲を促したり、共感してもらえる喜びを得たようです。併せて、きょうだいや親にとっても、活動や人との触れ合いを通じて、発散したり、気持ちを和らげる場となり、子どもや家族の交流が広がっていく様子も多く見られました。



【大塚商会ハートフル基金、ALSOKありがとう運動財団活動助成対象事業】

プログラム名	開催日	世帯数	子ども	大人
あそびに★おいで～	5/15	3組	4	4
週末プログラム(非がん)	5/22	4組	8	5
あそびに★おいで～	6/12	2組	3	3
週末プログラム(非がん)	6/19	4組	8	5
あそびに★おいで～	7/10	3組	6	6
週末プログラム(トワイライト)(がん)	7/23	4組	7	5
週末プログラム(あそびビュッフェ)(非がん)	7/31	5組	10	8
週末プログラム(紙芝居)(がん)	8/21	3組	5	5
週末プログラム(フルーツ&ハーブ)	8/27	3組	6	6
週末プログラム(フラワーセラピー)(がん)	9/18	2組	4	3

週末プログラム(フラワーセラピー) (非がん)	9/25	2 組	3	2
週末プログラム(ハロウィン) (がん)	10/29	5 組	10	9
週末プログラム(ハロウィン) (非がん)	10/30	3 組	7	4
週末プログラム(クリスマス飾り作り) (がん)	11/19	3 組	6	4
週末プログラム(クリスマス飾り作り) (非がん)	12/4	3 組	3	4
みなさまはじめまして(新規メンバー向け)	3/26	8 組	14	12

□メンバーイベントの取り組み

不特定多数が参加するイベントや公共の場での催し物に参加することが困難な子どもたちにとって、安心できる場で、気兼ねすることなく、家族みんなで楽しめる特別な体験ができる TCH のイベントは、毎回、子どもたちだけでなく、大人も笑顔いっぱいでした。



イベント名	開催日	世帯数	子ども	大人
オープニングイベント	4/1	3 組	5	4
クラウンがいっぱい ※日本ホスピタル・クラウン協会協賛	6/5	9 組	18	12
ユニクロ一日店長 (TCH 外: 大阪市立総合医療センター協力)	6/11	3 組	5	6
チャリティコンサート (TCH 外)	7/3	2 組	4	3
海の日イベント(水遊び)	7/18	5 組	9	8
山の日イベント ※ユニクロ協賛、大阪芸術大学福原ゼミ協力	8/11	20 組	37	32
体育の日イベント(親子ヨガ)	10/10	6 組	9	7
TCH 秋祭り ※大阪南ロータリークラブ協賛	11/6	7 組	12	11
ユニクロ一日店長 (TCH 外: 大阪市立総合医療センター協力)	11/12	3 組	4	6
プラネタリウム&アロマ企画 ※星空工房アリアルシャ協力	11/13	9 組	11	13
クラウンイベント	12/17	6 組	10	10
ユニクロ一日店長 (TCH 外: 大阪市立総合医療センター協力)	3/4	3 組	6	7
じゃがいもスクール① (TCH 外) ※パークセンター協力	3/4	2 組	3	2

□テーマ別企画の取り組み

病気や障がいのある子どもメインの活動や家族みんなで過ごすだけでなく、きょうだいや親もそれぞれがリラックスして過ごしたり、自分たちが主役となる取り組みとなりました。普段話せないことや聞きたいことなど、きょうだい同士や親同士の交流の中から会話が弾む様子が見られました。

イベント名	開催日	世帯数	子ども	大人
おとなカフェ(アロマ精油を使った虫よけスプレー作り)	7/9	6 組	10	6
きょうだい企画(宿題をしよう)	8/7	1 組	1	0
きょうだいの日 (TCH で遊ぼう: しぶたね協力)	10/23	3 組	3	0
おとなカフェ(メンバー講師によるペースト食)	1/28	4 組	0	4

また、メンバーとスタッフ、メンバーとキャスト、メンバーとメンバー、ファミリーとファミリー、子どもやご家族の広がり意識しながら、パーソナルとゾーンの多様な組み合わせた取り組みを進めました

3) 遺族ケア(ビリーブメントケア)に関する取り組み

□ビリーブメントケア(遺族ケア)の取り組みとして

お子さんを亡くされたご遺族に深い悲しみにそっと寄り添い続けることが、TCH の存在の意味を形づくっています。16 年度に登録いただいたメンバーのうち、9人の子どもたちが亡くなりました。とても悲しいことですが、子どもたちの思い出は、私たちの中にずっとあります。そして、TCH の継続的な関わりは、ご遺族のご希望をお伺いしながら、お家に訪問させていただいたり、お子さんの思い出であるアルバムづくりをしたり、そっと寄り添う、小さなことから始めています。

□遺族支援チーム「ビリーブ」の取り組み



子どもを亡くされたご家族が話したい時に話せるように、子どもを亡くした経験を持つピアボランティアが取り組む CHP ビリーブメントチーム「ビリーブ」。訪問や面談による 7 回(ご自宅 1 件、TCH5 件、電話 2 件)、ゆったりとお茶などをしながらお話を伺う「ビリーブのじかん」を TCH にて開催し、静かで、優しさがあふれる語らいの時間を持つことができました。

イベント名	開催頻度	参加者数
ビリーブのじかん	9月より月1回開催	17 名

3・ひろば活動としての取り組み(あそび創造広場活動の推進)

TCH がある「あそび創造広場」は、子どもたちの創造性と協働性を育む、遊びと憩いの場です。子どもを心から大切に想う、ゆったりとした広場でありたいと考え、様々な取り組みを実施しています。子どもがいきいきと遊ぶための場所であり、地域や市民と一緒に作る場所であり、緑いっぱいの自然あふれる場所である、そんな子どもたちのための素敵な場所であってほしいと、地域に開いた様々な活動を実施しました。

1) 各種地域向けの取り組み

① 地域イベントとしての取り組み

重い病気を持つ子どもであっても、心から楽しめる広場になること。あらゆる子どもたちが、思い思いに自由に楽しむ広場として、また市民が子どもや医療、地域社会を考える機会づくりなど、様々な企画を開催しました。

□子ども・ファミリーイベント

同じ世代の子どもたちが同じ経験ができるよう、そして、地域に開かれた子どもホスピスとなるように、あそび創造広場としての子どもやファミリー向けイベントを開催。地域の子どもたちと一緒に、メンバー家族も加わって、楽しい時間を過ごすことができました。



また、各種企画の実施にあたっては、社会貢献団体や高校生グループ、体験活動の講師など多様なスキルをお持ちの外部団体やスペシャルスキルボランティアに多大なご協力をいただきました。

イベント名	開催日	世帯数	子ども	大人
すべての子どもたち向けイベント	6/18	5	5名	5名
海の日イベント！思いっきり！水遊び	7/18	16	17名	27名
夏だから、水遊び！	8/19	3	3名	4名
夏休み工作教室「紙をつかってつくろう・あそぼう」	8/26	3	5名	3名
敬老の日企画「孫ヨガ」	9/19	6	9名	7名
TCH 秋祭り	11/6	17	20名	31名
ミニプレーパーク@あそび創造広場	11/12	3	5名	3名
クリスマス企画(絵手紙づくり)	12/3	5	10名	6名

□地域連携系プログラム

TCH を取り組む社会課題に関する周知や啓発、地域社会のあり方を考えるきっかけになるよう、地域に向けた様々な活動を実施しました。

イベント名	開催日	参加者数
むすびカフェ(病気の子どもをもつ親同士をつなぐイベント)	10/6, 1/19	2名
チャリティカフェ(メンバー家族によるチャリティイベント)	10/15	123名
子どもをめぐる医療を考える講演会	10/16, 1/22	52名
①「小児がんとはどんな病気？」(講師:原 純一)		
②「子どもたちの笑顔を支える小児緩和ケア」(講師:多田羅 竜平)		

② 場の開放、オープンデイとしての取り組み

TCH 内のカフェスペース「つるみカフェ」と、芝生がある「みんなの中庭」を一般に開放する「ふらっとカフェ」や、TCH の取り組みをご紹介する説明・見学会・オープンハウスを開催。多くの方が地域に開かれた子どもホスピスの有り様に関心を示し、私たちの話を熱心に聞いてくださいました。

場の開放を通じて、日頃から社会課題に対する関心をもっている市民層だけでなく、近隣の子育て世代を中心に、一般市民にも公園としての原っぱや、あそび創造広場としての TSURUMI こどもホスピスの認知を広げることができました。



イベント名	開催日・頻度	参加者数
オープンハウス(「鶴見緑地フェスタ 2016」)	10/15	120名
ふらっとカフェ(定例)	9月より、毎週金曜午前	125名
場の連携プログラム	10月から毎月一回程度	1団体
サポーターズカフェ(月例)	5月からほぼ毎月開催	101名
ボランティアタイム(月例)	11月からほぼ毎月開催	54名
見学・視察対応	月2回程度、枠設定で受け入れ	300名

2) 原っぱ活動としての取り組み

① 原っぱ整備に関する取り組み(大芸大との連携)

TCH オープン当初より、大阪芸術大学・福原教授の学生チームと連携し、プログラムとしての夏休みの遊び企画や広場環境づくりとしての原っぱの整備を進めています。

● 夏の植樹

7月に、広場南側の丘に苗木を植える企画を学生主体で実施。約300本の多様な品種が植えられ、砂防対策と景観づくりを進めました。

● 花壇づくり、生垣づくり

2017年3月に、原っぱにある雨水調整池の周囲に生垣を植える企画を学生主体で実施し、それまでロープとネットだった景観が、癒しをあたえる素敵な緑の風景に変わりました。

「みんなの中庭」外縁には花壇を2基設置。2017年度にはメンバーが参加するお野菜・花壇づくりを計画しています。



② 原っぱ活動の基盤整備

オープン後初めての夏を迎えるに際し、キャストボランティアや大芸大との意見交換を重ねながら、排水・散水面などの課題抽出と、必要な機材・資材の購入などを中心に整備を進めました。管理設備や園路の舗装計画は予算の関係上、翌期以降に持ち越すことになりましたが、ハウスキープのボランティアとともに、原っぱの植栽の維持管理の経験を重ねることができ、次の庭づくりのイメージを高めていっています。

4・広報・ファンドレイジングの取り組み

TSURUMI こどもホスピスは、フリースタANDINGな立ち位置から、地域社会に対して成そうとする主旨を丁寧にお話し、各種の取り組みを広く届けていくことで、活動の永続性にご協力いただける、個人、団体・企業の方々が必要だと信じています。そこで、寄付が「集まるようにする」仕組みを整備し、多様なサポート体制が重要になります。TCH の実践を様々な方法で示し、お伝えする活動はまだ始まったばかりです。

1) メディア等の外部媒体との連携と、自主媒体としての発信活動

① メディア、表彰系の取り組みとして



10社以上のメディアにお越しいただいたオープニングから1年間、新聞、テレビ、ラジオ、雑誌など、各種メディアにTCHの活動や風景をご紹介いただきました(計24回)。これらについては、メンバー家族やボランティアの協力をいただいたからこそ、積極的な発信ができたものと思います。この場をお借りし、ご協力いただいた皆さまに、御礼申し上げます。

また、TCHのハウスのデザインやコンセプトを評価いただき、第9回キッズデザイン賞とGOOD DESIGN AWARD 2016を受賞しました。

②地域社会への発信と広報活動

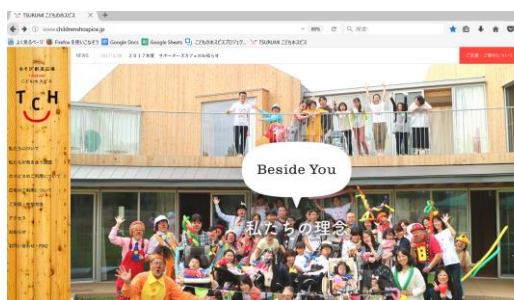
TCH の取り組みを地域の方に知っていただくために、関西大学校友会のご協力ですつみ区民まつりで広報活動を行ったり、鶴見緑地フェスタ(10/15)の一つとしてチャリティカフェを開催。また、阪急百貨店のご厚意により、H2Oサンタチャリティトーク、NPOフェスティバルに出展しました。子どもホスピスの存在と意義を知っていただけるよう、多くの人が行き交う場での広報活動にスタッフもボランティアも頑張りました。



③自主媒体による発信や広報活動、対応について

オリジナルの TCH パンフレットやフライヤーを作成、12 月にウェブサイトを一刷新し、できるだけ TCH の取り組みの見える化に努めました。

寄付で運営する取り組みが広く支持されるよう、これからも情報発信を強化していきます。



2) ファンドレイジングの活動

オープン後半年間は、主にケア活動において、利用者募集などの利用拡大や組織運営の整備に重きを置いて進めたため、上半期は積極的なファンドレイジング活動を進めることができませんでした。下半期からは、定期的に寄付ができるクレジット決済システムの導入、TCH の風景を伝える広報ツールを作成し、それらを使ってファンドレイジング活動を始動させました。

①TCH マンスリーサポーター制度の導入と都度(一時)寄付の拡大

広報準備の遅れがあり、1月からマンスリーサポーターの本格募集を開始。個人は 31 名、企業・団体は 1 団体にご加入いただくことができました。この他、CHP を支える賛助会員は 25 名・団体となりました。

メディア等の広報により、子どもホスピスの取り組みへの賛同から数多くのご支援のお申し出がありました。その結果、876 万円のご寄付をいただきました。



TCH-MONTHLY
S U P P O R T

②協力・連携による寄付活動の取り組み

□チャリティ・PR機会の設定による取り組み

広場の活動の一つ「サポーターズカフェ」(支援者向け説明会)を開催し、TCH の取り組みに対する理解者を広げる活動に取り組んだ他、大阪府医師会フィルハーモニーや大阪ガス・癒しの音楽(コンサート)での募金活動の実施、関西大学校友会鶴見支部の協力によるつみ区民まつりでのブースにおける募金活動などをボランティアと一緒に取り組みました。このような外部の団体のご協力によるチャリティ活動を通じたPR活動は、子どもホスピスの存在と意義周知する機会となります。次年度以降も、こういった広報の機会をいただきつつ、募金活動の拡大をはかっていく予定です。

他、16 年度には、社会貢献型自動販売機をさらに1台設置いただきました。設置合計台数は 13 台、寄付総額は約 83 万円になりました。

3)新規財源の獲得のための活動:各種助成金の申請と財源拡大

16 年度、TCH 開設や基盤確立に関する運営助成の他、各種プログラムに対する助成金をいただき、様々な活動を展開することができました。

- ・子どもたちの豊かな心を育む地域社会のモデルの構築(公益財団法人日本財団)
- ・難病児支援事業の拡大に向けた組織基盤強化(公益財団法人日本財団)
- ・小児難病児向けのレスパイトサービスの実施(公益財団法人日本財団)
- ・TSURUMI こどもホスピスにおける設備工事及び備品購入(公益財団法人日本財団)
- ・平成 28 年度重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成(公益財団法人ベネッセこども基金)
- ・ハートフル基金(株式会社大塚商会)

※以下は、16 年度から 17 年度に渡って支援いただく助成金です。

- ・平成 29 年度重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成(公益財団法人ベネッセこども基金)
- ・TSURUMI こどもホスピスにおける運営体制の強化(公益財団法人日本財団)
- ・活動助成金(公益財団法人ALSOKありがとう運動財団)

また、新たな財源獲得のため「第7回大阪マラソン寄付先団体」(2017 年度実施)に申請したところ、寄付先団体に選出いただきました。慈善寄付による運営の財源の一つとして、貴重な寄付募集の機会になりますので、17 年度ファンレイジング重点活動の一つとして、しっかり取り組んでいく予定です。

4) 寄贈によるご支援

企業・団体や個人の皆さまより「何か寄贈してほしいものは？」といった温かいお申し出やご相談を多数お受けしました。子どもたちがハウスで素敵な体験ができるように、そして、私たちのハウスが必要としているものなど、ご提案させていただいた結果、お茶やお菓子や飲料、衣料などをご寄贈いただきました。また、クリスマスには大きなクリスマスツリーをいただき、メンバー家族も大喜び。素敵なクリスマスのハウスになりました。

現物寄付のご寄贈については、ホスピスのウェブサイト内に「ウィッシュリスト」にて公開しています。今後も、子どもたちのニーズや活動の内容に沿ったものを募っていく予定ですので、今後とも何卒ご協力ください。



5・ホスピスの活動を支える人材と組織基盤の強化活動

あらゆる子どもたちにとって、多様な人との出会いは大事な機会です。そして、個々の思いや互いの弱さを補いあったり、運営面をより円滑に進めていくためにも、TCH の活動にボランティアの存在は欠かせません。TCH オープン前から募集、研修を実施し、16 年度は活動の変化や広がりを踏まえながら、ボランティアコーディネートを実践しました。

1) TCH におけるボランティアマネジメントの体系と活動の概要

①ボランティアに関する基本的な考え方

TCH の理念に共感し、理解し、ともに汗を流していただける方にボランティアというコミュニティの一員になっていただくにあたっては、以下にある活動体系とボランティアになるための手順と要件を整理した上で、募集・面談・研修(養成)・活動・フォローの機会などを設定。これらの手順を踏んだ方に仲間に加わっていただきました。

ボランティアの種類		活動エントリーの資格等の要件	登録までのステップ	登録者数
● TCH キャスト	ファミリーサポート・ボランティア	TCH の理念・ビジョンを理解し、定期的な活動を通じて、子ども家族をケアする(看護師、保育士など、子どもケアに職業経験3年以上ある方に限定)	・説明会等参加 ・ボランティア面談 ・ボランティア登録 ・キャストボランティア入門研修	53 名
	フレンズ・ボランティア	地域イベントやチャリティイベントなど、TCH の各種活動のボランティア ①ハウスキープ②レセプション③ロジサポート	・キャストフォロー研修(17 年度から実施)	①50 名 ②46 名 ③51 名
● TCH メイト	スペシャルスキルボランティア	TCH での豊かな機会と時間を提供いただく「特定の」スペシャルなスキル(技術や芸術)等をお持ちの個人や団体。	・説明会等参加 ・ボランティア面談 ・スペシャルスキル登録	10 名 スペシャルスキル登録

※非登録で、協賛・協力企業や地域団体が企画協力などを通じて参加してもらう単発ボランティアやメンバー家族によるメンバーボランティアの活動を実施しました。

②キャストボランティアの募集、登録から、育成・研鑽・交流

TCH のあらゆる活動に継続的に取り組むスタッフをキャストと呼び、無償の社会的活動としてボランティアで関わる「キャストボランティア」とともに、TCH の活動をつくってきました。

□ボランティア募集

活動名	開催日	参加者数
ボランティア説明会	4/4、5/26、5/29、10/15	87 名
まなびボランティア(学生)説明会	12/11	14 名

□ボランティア研修

活動名	活動概要	開催日	参加者数
キャストボランティア入門研修	TCH のキャストとして押さえておきたい項目を学び考える一日研修	4/24、6/26、12/10	66 名

【キャストボランティア研修の内容】

①子どもとは(旭川短期大学佐藤貴虎教授)②病気と生きる子どもの思いと医療～医療者の視点から(大阪市立総合医療センター 原純一／多田羅竜平)、③TCH の活動における衛生管理や視点(TCH ケアスタッフ)、④きょうだい支援の視点から(しぶたね)、⑤親の想いと抱えるニーズ(ケアスタッフ)、⑥ボランティアとは:TCH で大事にしたい視点(TCH ボランティアマネージャー)、⑦TCH を知るワークショップ



▲ボランティアギャザリングの様子

□ボランティア交流・情報共有

活動名	活動概要	開催日	参加者数
ボランティア交流会	ボランティア同士交流や情報交換など	9/19	13 名
ボランティアギャザリング	活動概況を共有・ふりかえり、ケア&運営面など9か月間の活動の総括を行った。	12/11	23 名

※この他、キャストボランティアやまなび支援学生ボランティア向けに、ボランティアメールニュースを9号発信し、TCHの活動の予定や状況報告を行いました。

④まなび支援の学生ボランティアや、学生に伴走するボランティアの養成



大阪教育大学、大阪大学、関西国際大学の「まなび支援講座(まなびバ講座)」を修了した学生が、TCH を利用するメンバーに関わるボランティアとして活動。学生だけで取り組むのではなく、学生をサポートするキャストボランティアに、ともに子どもに寄り添うための視点や技術を学ぶ「まなびプロボノ研修」を開催。昭和大学の副島賢和先生にスーパーバイザーとして現場の取り組みにご助言いただきながら、活動を進めました。【ベネッセこども基金助成対象事業】

活動名	活動概要	開催日(回数)	参加者数
まなびプロボノ研修	教師経験があるボランティアが子ども家族への寄り添い方の基礎を学ぶ研修	4/12	7 名
まなび&プロボノ実習	小・中学生の学びの場で一緒に勉強したり、お話する活動を通じて、関わり方を学ぶ機会として	6 月より月1回程度 (計 10 回)	20 名

⑤ボランティア活動の概要

キャストボランティアには、TCHの活動の様々な場面をサポートし、スタッフとともに考え作っていくことができました。ボランティアによる活動時間は合計 3,164 時間になりました。在宅での作業や記録化しきれてないものもありますので、これ以上の様々なご協力をいただいたことになります。本当にありがとうございました。

活動種別	主な活動内容	時間数
ハウスキープ	ハウスや原っぱのお掃除やメンテナンス活動	675 時間
レセプション・運営	活動の運営補助(受付、記録、各種補助)などの活動	332 時間
ファミリーサポート	子どもやファミリーのケアをサポートする専門職による活動	1028 時間
クリエイティブ	映像、デザインなどクリエイティブな技術を提供	(17 年度より)
スペシャルスキル	各種技術・芸術など、特定の技能をプログラムとして提供	14 時間
他、単発、団体連携	ビリーブの活動、他団体の協力による活動など	1115 時間

※実数としては、キャストボランティア 99 名、学生ボランティア 47 名、スペシャルスキルボランティア 10 名になります。

2)組織運営の強化と財政面について

①法人運営(ガバナンス)の整備

□総会の開催

社員総会を2016年7月13日に開催し、社員7名のうち社員7名の出席により、理事の選任、事業報告・決算、事業計画案、事務局体制等について協議し、承認しました。

□理事会の開催…どの回も、会場はTSURUMI こどもホスピス

開催日	主な審議事項	出席者数
5/25	理事の推選、過去実績の確認と事業継続の承認、16年度体制等	6名
6/29	15年度決算事業報告案、16年度事業計画案、会費、総会の付議事項等	5名
7/13	代表理事の選任	5名
10/16	上半期実績報告と補正予算、アドバイザー制度、利用者委員の確認等	4名
3/16	17年度計画と予算案、組織体制・賃金規定案、利用者承認利用区分案等	5名

※この他、2014年度より継続していた運営委員会を2回開催(4/25、9/1)し終結。開設年ということもあったため、主に理事とマネージャーで運営面・事業面を協議する「執行部会議」を3回開催し、理事会で諮る内容について事前の協議を進めました。

(2016年度理事・監事)

代表理事 高場 秀樹 副理事長 原 純一 専務理事 多田羅竜平 理事 安道 照子
理事 坂下 裕子 監事 奥谷 敏之

□利用者承認委員会の設置と運営

TSURUMI こどもホスピス TCH は、ご利用を希望するご家族のエントリー後、利用者承認委員会での確認と承認を得た方にご利用いただく仕組みになっています。2016年度は承認委員会を1回開催いたしました。

回	開催日	主な審議事項	出席者数
準備会	8/22	委員会の位置づけの確認、承認手続きの考え方	3名
第1回	10/7	利用者の承認手続きと区分の基準についての協議など	4名
第2回		※承認区分の見直しに伴い、2017年4月開催に持ち越した	

(2016年度 利用者承認委員一覧※2016年度末のご所属・役職)

囀府寺 美 中野こども病院 副院長
新家 一輝 大阪大学大学院医学系研究科保健学 講師
船戸 正久 大阪発達総合療育センター副センター長
丸 光恵 甲南女子大学看護リハビリテーション学部 教授
矢野 朋子 大阪市立大学老年看護学 研究員

②スタッフ体制の強化

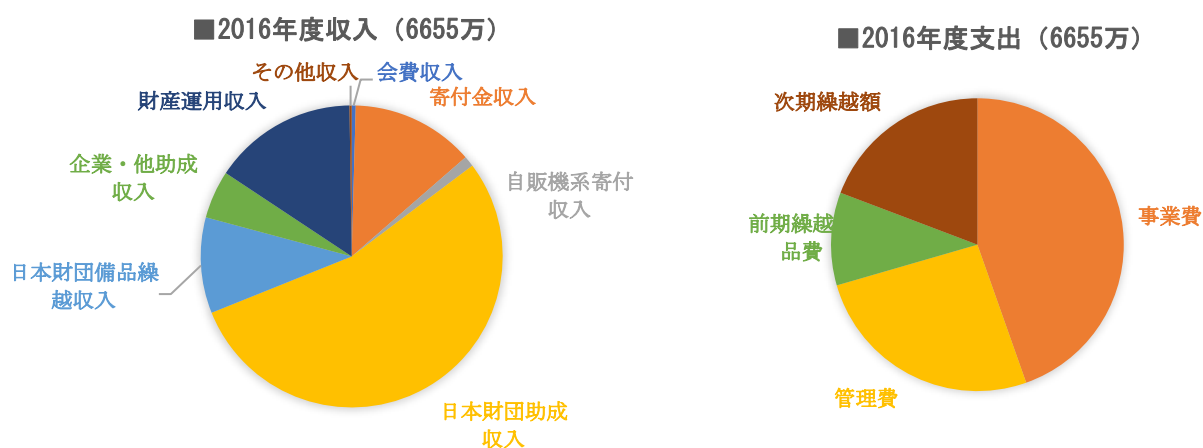
TCH のオープンに伴い、TCH の運営やケア活動を推進していくため、スタッフの拡充を順次行い、16年度は以下のマネージャー体制のもと、総務・広報、エリア、ケア、ボランティアの部門ごとに常勤・非常勤の人員を配置

しました(年度途中で契約終了や自己都合等により、退職された方も含んでいます)。

- ・ゼネラルマネージャー(全体統括) 高場秀樹
- ・エリア&ボランティアマネージャー(事務局長) 水谷 綾
- ・ファミリーケアマネージャー 市川雅子(看護師)
- ・アシスタントケアマネージャー 大矢佳代(保育士)
- ・ケアスタッフ 青儀祐斗(理学療法士)、伊藤左弥子(作業療法士)、小野京子(保健師)、川人真知子(看護師)、辻ゆきえ(看護師)、西出由実(看護師)、温井一三(保育士)、古本愛貴子(看護師)、松本裕美(看護師)
- ・エリア(ファンドレイジング)・事務スタッフ 岩井弥生、山本佳史、小林喜美子、青田順子、西本安友美

③財政面の動向と次にむけて

2016年度は、日本財団から初動の運営支援金を含む先述した助成支援やご寄付等により、スタッフを確保・育成し、設備の拡充などを進めることができました。とくに、日本財団からの運営支援金は18年度で終了する見通しですので、この間に、新たな財源の柱になるものを作っていくことが喫緊の課題です。様々なチャネルからの財源拡大を進めていき、そして、皆さまから末永いご支援をいただけるよう、私たちが鋭意努力してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



あそび創造広場
TSURUMI
こどもホスピス



一般社団法人 こどものホスピスプロジェクト

〒538-0035 大阪市鶴見区浜1丁目1-77
あそび創造広場 TSURUMI こどもホスピス
TEL 06-6991-9135 FAX 06-6991-9136
Email: info@childrenshospice.jp
<http://www.childrenshospice.jp>